

## 《Lesson 4》 付加疑問文の答え方

付加疑問文の答え方は、基本的に普通の疑問文と同じです。そのため、否定の付加疑問文の場合、答え方が日本語とは逆になるので注意しましょう。

### 《付加疑問文の答え方》

(1) 基本的に普通の疑問文と同じ答え方。

肯定の場合 = **Yes, ~.**      否定の場合 = **No, ~.**

(2) 否定の付加疑問文の場合、答え方が日本語とは逆になるので注意。

### <例1> You are from Osaka, aren't you? (あなたは大阪出身なのですよ)

『はい』の場合 (私は大阪出身です)

→ **Yes, I am.**

『いいえ』の場合 (私は大阪出身ではない場合)

→ **No, I am not. / No, I'm not.**

### <例2> Mike didn't go to college, did he? (マイクは大学に通わなかったのですよね)

『はい』の場合 (彼は大学に通いました)

→ **Yes, he did.**

『いいえ』の場合 (私は大阪出身ではない場合)

→ **No, he did not. / No, he didn't.**

### ポイント！会話でよく使われる “right?”

よく会話では、短縮の疑問形を文の最後に足す代わりに **right?** (正しいでしょ?/あっているよね?) が使われます。特に “I am~.” の不可疑問文の場合、“am I not?” や “aren't I?” の代わりに “right?” がよく使われます。

<例> You can teach math, **right?** (あなたは数学を指導できるのですよね)

I am not late, **right?** (私は遅刻ではないのですよね)

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいささか責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。